

平成30年度第3Q定期試験・補講日程表

※期間中は教室が通常の教室とは異なる場合があります。以下の表で実施教室を必ず確認してください。

工学研究科

平成30年11月16日掲載 工学研究科学務課教務学生係

時間割所属	実施形態	実施日	実施 時限	開講授業科目名称	時間割 コード	主担当教員	試験・授業教室	試験の 持込	左記の具体的な携行可能品	備考
博士前期 全専攻共通	補講(授業)	11月30日	3限	知的財産の基礎	3T352	開本 亮	K棟情報処理演習室501			
	試験	11月30日	4限	知的財産の基礎	3T352	開本 亮	K棟情報処理演習室501	不可		
博士前期 建築学専攻	試験	11月22日	2限	建築動力学1	3T410	向井 洋一	C2-302	可	テキスト、ノート、印刷物のみ	
	試験	11月26日	2限	空間構成論1	3T408	田中 剛	C1-201	可	電卓のみ持ち込み可	
	補講(授業)	11月27日	1限	音環境評価論A	3T412	佐藤 逸人	C1-201			
	試験	11月27日	2限	建築構造計画論1	3T409	山邊 友一郎	C1-201	不可		
	補講(授業)	11月28日	1限	鋼架構論1	3T406	多賀 謙藏	C1-201			
	補講(授業)	11月30日	1限	固体計算力学Ⅲ	3T407	大谷 恭弘	C2-202			
	補講(授業)	11月30日	2限	固体計算力学Ⅲ	3T407	大谷 恭弘	C2-202			
博士前期 市民工学専攻	試験	11月27日	3限	意思決定論	3T451	喜多 秀行	C2-101	不可		
	補講(授業)	11月30日	1限	固体計算力学Ⅲ	3T407	大谷 恭弘	C2-202			
	補講(授業)	11月30日	2限	固体計算力学Ⅲ	3T407	大谷 恭弘	C2-202			
博士前期 電気電子工学専攻	補講(授業)	11月22日	3限	画像処理特論A	3T504	黒木 修隆	C4-301			
	試験	11月27日	1限	有機エレクトロニクス	3T503	北村 雅季	LR203	可	すべて可	
博士前期 機械工学専攻	補講(授業)	11月22日	3限	ロボティクスI	3T559	横小路 泰義	C1-201			
	補講(授業)	11月26日	1限	応用固体力学I	3T554	阪上 隆英	C1-201			
	補講(授業)	11月26日	2限	熱エネルギーシステム工学I	3T552	浅野 等	C1-301			平常点+レポートで成績評価
博士前期 応用化学専攻	補講(授業)	11月22日	4限	流体物性論1	3T605	菰田 悦之	C4-301			レポート提出
	試験	11月26日	2限	物理化学特論1	3T604	福島 達也	LR303	不可	筆記用具のみ	
	補講(授業)	11月30日	3限	単位操作論1	3T609	今駒 博信	C1-201			

平成30年度第3Q定期試験・補講日程表

※期間中は教室が通常の教室とは異なる場合があります。以下の表で実施教室を必ず確認してください。

システム情報学研究科

平成30年11月16日掲載 工学研究科学務課教務学生係

時間割所属	実施形態	実施日	実施 時限	開講授業科目名称	時間割 コード	主担当教員	試験・授業教室	試験の 持込	左記の具体的な携行可能品	備考
システム情報学研究科 博士前期	補講(授業)	11月22日	1限	ネットワークコンピューティング論	3X009	太田 能	自3-125			
	補講(授業)	11月22日	2限	システム計画学特論	3X001	貝原 俊也	LR204			
	補講(授業)	11月22日	3限	計算生物学	3X008	田中 成典	LR204			
	補講(授業)	11月26日	2限	計算生物学	3X008	田中 成典	LR204			
	補講(授業)	11月26日	3限	計算理論	3X004	酒井 拓史	LR203			
	補講(授業)	11月28日	2限	集合論特論	3X005	ブレンドル ヤーグ	LR404			
	補講(授業)	11月28日	4限	計算理論	3X004	酒井 拓史	LR203			
	補講(授業)	11月30日	2限	集合論特論	3X005	ブレンドル ヤーグ	LR404			

試験に関する注意事項

1. 受験の際、学生証を必ず携帯すること。
2. 試験室にて不正行為のあるときは、直ちに厳重なる処罰をする。
#学生便覧を参照のこと
3. 試験開始後20分間は、受験者の退室を認めない。
4. 試験開始後20分を経過した後は、受験者の入室を許さない。
5. 答案用紙は、答案の成否に拘らず各枚毎に必ず学籍番号・氏名を記入して提出すること。
6. 答案用紙に他事記載を禁ずる。もしこれを記載したときは不利益を受けることがある。
7. 試験に不必要なものは、一切かばん類の中へしまいか又は所定の場所へ置くこと。
8. 不正行為と誤解を受けるような物が机の中にある場合あるいは机上及び周辺の壁に落書きがある場合は、試験監督教員に届け出ること。
9. 一旦退室した者は、いかなる理由によっても受験者全員の答案回収が済むまで再入室を許さない。
10. 携帯電話等の通信機器を時計もしくは電卓の代わりに使用することは一切認めないので、必ず電源を切った上でかばん等の中へしまっておくこと。
試験中、これらの機器に触れている場合、ポケット等に入れている場合、もしくは机の上あるいは中に置いている場合、不正行為とみなす。
(なお、試験時間中にかばん等の中で着信音やマナーモードの振動音等が発生した場合は、監督者が本人の了解を得ずにかばん等を試験室外に持ち出すことがある。)
11. 警報等の発令により試験が実施されなかった場合、代替日はその都度掲示する。

工 学 部
工 学 研 究 科
システム情報学研究科